

ゼロカーボンシティ宣言

～2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けて～

地球温暖化は世界的な気候変動も進行させ、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)2019年度の特別報告書では、地球の温暖化には疑う余地がなく20世紀半ば以降の温暖化の主な要因は、人間による影響の可能性が極めて高く、このまま気候変動を放置すれば人間と生態系に深刻で広範囲、かつ取り返しのつかない影響が高まるとされております。

このような状況の中2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指し一つの課題を整理し、解決していくことは世界にも貢献していく新たなビジネスチャンスにもつながります。この挑戦は北杜市から日本の成長戦略そのものです。経済と環境の好循環を生み出すためにも、地方においてもできることから目標へ向かって取り組んでまいります。

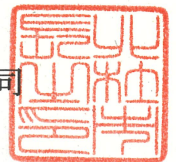
日本の技術開発の高さから、カーボンリサイクル、次世代型太陽電池をはじめとした革新的なイノベーションを実用化しながら、国と地方で立場は違いますが、オール日本として経済と環境の好循環をつくりだします。

北杜市と北杜市地球温暖化対策・クリーンエネルギー推進協議会は、2016年に国の地球温暖化対策計画において、2030年度までに2013年度基準比でエネルギー起源の温室効果ガス26%の削減目標にも取り組みながら、地方循環型社会の構築と地球環境の保全を図ることを目的とし、本市の恵まれた自然を活用したエネルギーの利用により、温室効果ガス排出低減等にも取り組んでまいりました。

小泉進次郎環境大臣から自治体での取り組みの重要性と波及効果への期待が表明され、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロに対する行動に賛同し、地球規模の環境保全について取り組みながら目標とされている2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指すことを宣言し、その実現に向けた取り組みも推進いたします。

令和2年12月23日

北杜市長 上村 英 司



北杜市地球温暖化対策・
クリーンエネルギー推進協議会
会 長 篠原 充

